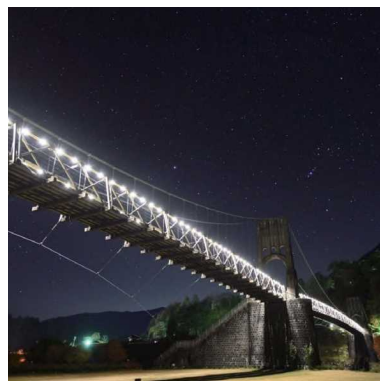
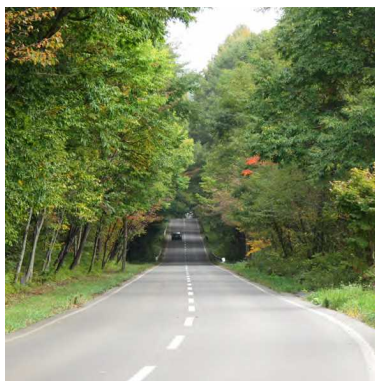


信州みちビジョン

[概要版]



しあわせ信州
長野県建設部

信州みちビジョンの概要

策定の背景と目的 ～計画の位置付け

道路に求められる役割が多様化

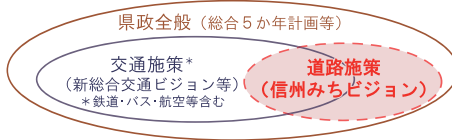
交通の円滑化 安全性の向上	維持管理や景観等 質的な向上	観光振興や まちづくりへの寄与
------------------	-------------------	--------------------

道路をとりまく状況の変化

道路予算の減少	橋梁等の老朽化	人口の減少
---------	---------	-------

上記の背景を踏まえて、時代の要請に応じた道路の整備や活用など、今後 10 年間のみちづくりの方向性を示す。

● 本ビジョンの位置付け



● 本ビジョンの期間



将来像

2018年度からの長野県総合5か年計画において、概ね2030年頃の長野県の将来像を展望しており、本ビジョンにおいても共有する。

「学びと自治の力」を推進エンジンとして、右記のめざす姿に向けた施策を展開します。

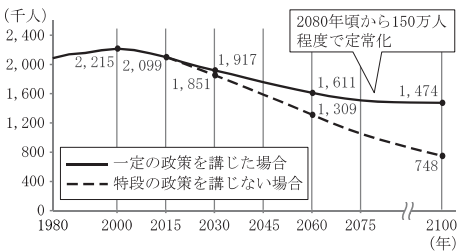
- ▶ 産業の生産性が高い県
- ▶ 人をひきつける快適な県
- ▶ いのちを守り育む県
- ▶ 誰にでも居場所と出番がある県

課題

(1) 人口減少・高齢化の進行

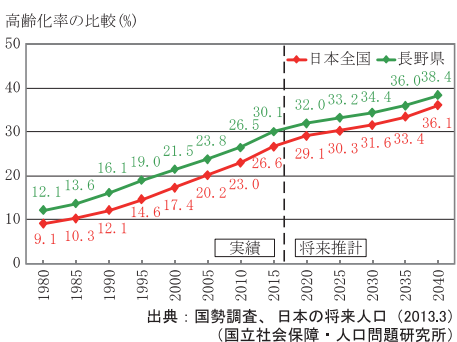
- ・人口減少による活力の低下
- ・高齢化の進展による歩道整備等へのニーズの高まり など

● 長野県の人口の将来展望



注) 2015年までは国勢調査、2020年以降は長野県企画振興部推計
「一定の政策を講じた場合」は、国、都道府県、市町村が人口減少に歯止めをかける政策を講じた場合の推計
「特段の政策を講じない場合」は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)」を基に現状の継続を前提として推計
出典：県総合計画審議会資料

● 長野県の高齢化率の推移 (全国比較)



出典：国勢調査、日本の将来人口(2013.3)
(国立社会保障・人口問題研究所)

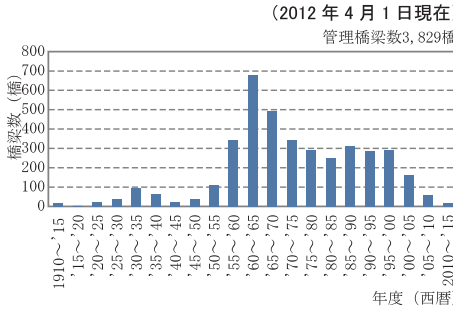
(2) 持続可能な社会への移行

- ・過度な車依存や都市の郊外化
- ・自然環境や景観への配慮 など

(3) 事故・災害・老朽化等に対する安全性の確保

- ・求められる安全レベルの高まり
 - 高齢者等の事故対策
 - 災害に強いみちづくり
 - 橋梁等の老朽化 など

● 長野県の架設年次別橋梁現況



管理施設	管理数 2012.4.1現在	建設後50年経過した高齢化施設	
		数	率
橋梁	3,829橋	1,088橋	28%
舗装	5,050km	—	—
トンネル	189本	25本	13%
ロックシェッド	51箇所	0箇所	0%
スノーシェッド	67箇所	2箇所	3%
緊急輸送路吹付法面	719箇所	19箇所	2%

出典：長野県「長野県の道路の長寿命化修繕計画」

(4) 社会の広域化・国際化

- ・生活圏拡大やインバウンド増加等、社会の広域化・国際化への対応 など

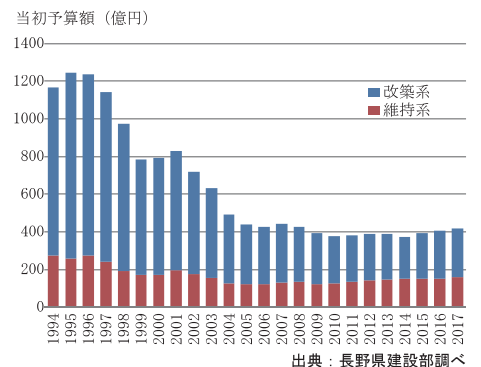
(5) 高度情報化社会の進展

- ・高度情報化技術を活用した道路計画の効率化 など

(6) 限られた予算

- ・限られた予算化における事業の効率化
- ・関係機関との連携による効果最大化 など

● 道路系当初予算の推移



出典：長野県建設部調べ

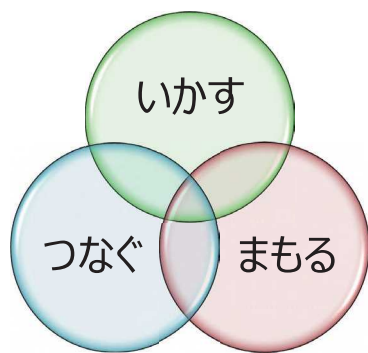
基本目標

つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり

人口減少・高齢化や社会の広域化・国際化等の課題を、限られた予算の中で解決するためには、道路を「つなぐ」だけではなく、命や暮らしを「まもる」こと、道路を地域づくりへ「いかす」ことが求められています。

今後はこの3要素をバランスよく進めていくことが重要であるため、上記を本ビジョンの基本目標とします。

基本方針



3つの基本方針

基本方針は左記の3つとし、重点分野等を進める際に、それぞれの方針を反映させるものとします。

[重点分野]

各種意見*及び長野県の特性をふまえ、右記3点を重点分野として抽出しました。

*:意見交換会、アンケート調査、信州みちビジョン検討委員会 など

持続可能で快適な暮らし

県土の強靱性

観光や産業の振興

(重点分野にかかる詳細は、見開き内の頁をご覧ください。)

つなぐ

——県内外をスムーズかつ効果的につなぐ

- ・道路の役割に応じたネットワークの構築
- ・自動車中心の道路網から多様な利用者重視の道路網へ
- ・平常時交通に加え観光時期や救急車両等の特定交通も重視へ
- ・情報技術等を活用した効果的な事業の実施

●県土の骨格となる高規格幹線道路の例



まもる

——災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる

- ・高度情報化に伴う安全レベルの向上
- ・交通弱者や災害時要援護者（高齢者等）増加への配慮強化
- ・想定以上の事象も考慮した被害を低減する方策の検討

●落石等危険の恐れがある道路法面の調査イメージ



いかす

——道路の多面的な機能等を地域づくりへいかす

- ・通行機能重視から、たまり機能などの多面的機能も重視
- ・既存道路や情報技術（広報含む）の活用を推進
- ・自然環境や地域資源などを損なわずに活用を推進
- ・県民の声や県民の力の道路行政への反映を推進

●道路でのイベント例



I 『持続可能で快適な暮らしを支えるみちづくり』

子供からお年寄りまで、皆が快適に暮らせる、持続可能な地域を目指す

人口減少社会への対応として、集約・連携型の「コンパクト+ネットワーク」の道路網を構築するとともに、環境へ配慮した低炭素社会への移行や、高齢者等の交通弱者を含む誰もが安心して移動できる道路環境の形成を進めます。

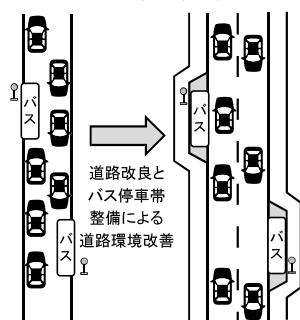
施策 I-(1) コンパクト+ネットワークに資する道路網の構築

- ①コンパクトな拠点を形成支援する道路整備
 - ・市街地道路・環状道路・放射道路整備，道の駅の拠点活用，「小さな拠点形成」の支援等
- ②拠点間をつなぐ道路ネットワーク整備
 - ・医療施設アクセス道路整備，1.5車線の道路整備等
- ③歩きたくなる まちなか道路環境整備*1
 - ・歩道のユニバーサルデザイン化，無電柱化等

●コンパクト+ネットワークに資する道路整備のイメージ



●道路改良とバス停車帯整備のイメージ



●道の駅に設置されたEV充電設備例



施策 I-(2) 低炭素社会を目指した道路整備

- ①バスや鉄道等の利用を促す道路環境整備
 - ・バス路線の道路環境整備(改良、停車帯整備など)，交通手段間の連携強化(主要駅アクセス道路整備、結節機能強化など)等
- ②渋滞解消や照明LED化等による道路環境整備
 - ・ビッグデータを用いた渋滞対策，道路照明LED化，EV充電施設の設置支援等

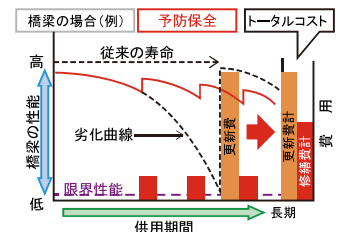
施策 I-(3) 誰もが安心して移動できる道路環境整備

- ①歩行者や自転車等が安全に移動できる道路整備
 - ・通学路対策，ゾーン30整備協力，踏切道改良等
- ②インフラメンテナンスの強化(老朽化対策等)
 - ・長寿命化計画やICT技術による道路管理効率化等

●通学路の要対策箇所例



●ライフサイクルコストの削減イメージ (長寿命化計画の実施による)



	整備効果	現状	概ね10年後 注:(カッコ内は将来*2の値)
(1)	主要医療施設*3 15分人口カバー率	約85%	(約87% 約3.5万人増)
	主要医療施設*3 30分人口カバー率	約97%	(約98% 約3万人増)
(2)	照明LED化によるCO ₂ 排出量削減	10,176t-CO ₂ /Kwh	2,271t-CO ₂ /Kwh [約8割削減]
	道の駅へのEV充電設備 設置率	62%	100%を目指した設置支援*4実施
(3)	H24点検 通学路安全対策箇所整備率*5	83%	100% + 必要箇所への対策

*1:「道路環境整備」道路整備(通常の改築事業)以外の、質的向上や他事業の連携等(以降も同様)

*2:「将来」事業中・調査中の路線や箇所等(スマートIC含む)が完成した時と仮定。

*3:「主要医療施設」第二次及び第三次医療施設とする。(将来は県外医療施設も含み試算)

*4:設置者が市町村や民間事業者が中心のため、設置支援とする

*5:H24年度に実施した緊急合同点検で確認した要対策箇所のうち、安全対策が完了した割合

II 『県土の強靱化を担うみちづくり』

多様な災害に備え、いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す

地震、風水害、土砂災害など、多様な災害が想定される本県において、安心して暮らし・過ごすため、緊急輸送路の整備や早期復旧、災害対応の迅速化を目指した道路機能等の強化を進めます。

施策
II-(1)

災害時の人や物資輸送の確保・早期復旧

①災害による影響を最小限に抑える道路整備・維持管理

- ・緊急輸送路の改築・橋梁耐震化・法面对策、代替路整備、無電柱化整備等

②関係機関(国・隣県・市町村等)との連携強化

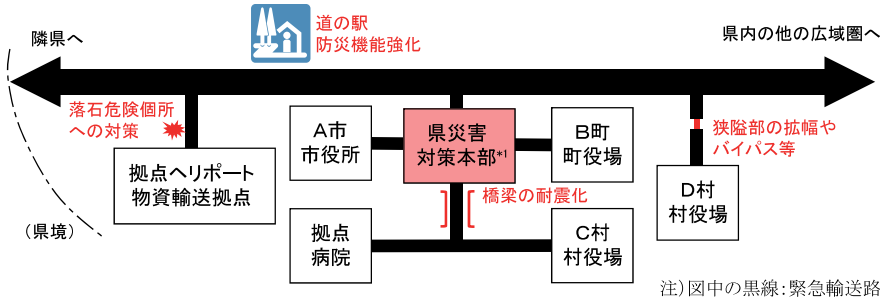
- ・県外へつながる緊急輸送路の整備、防災関係計画との連携等

●橋梁耐震補強や落橋防止装置設置の事例

対策完了イメージ



●緊急輸送路の整備による県災害対策本部*1と防災拠点のつながりのイメージ



●緊急輸送路の整備例



施策
II-(2)

災害対応の迅速化を目指した道路機能等の強化

①災害拠点としての道の駅等の整備

- ・道の駅の防災機能強化(防災倉庫、防災トイレ、防災井戸などの整備)等

②道路情報の提供充実(平常時・発災後)

- ・緊急輸送路の整備状況公表, 「通れるマップ」活用, UAV(無人航空機: ドローン等)活用等

●道の駅の防災機能強化例



	整備効果(緊急輸送路ネットワークについて)	現状	概ね10年後
(1)	緊急輸送路整備*2により県災害対策本部*1とつながる*3防災拠点*4の割合	約74%	約83%
	緊急輸送路整備*2により県災害対策本部*1とつながる*3隣県*5[県境]	5県 17路線 [85%]	5県 19路線 [95%]
	主要な道路施設点検実施率	H26から法定点検開始	5年毎に100%実施

*1:「県災害対策本部」災害対策本部地方部(10の合同庁舎)含む

*2:「整備」幅員(5.5m以上)改良・橋梁耐震化・法面对策が完了した路線

*3:「つながる」緊急輸送路以外(整備済み)の部分的利用や近傍での迂回も含めるものとする

*4:「防災拠点」市町村役場(主な支所含む)、災害時拠点病院、拠点ヘリポート、物資輸送拠点

*5:「隣県」隣県県境までとする。隣接8県のうち直接つながる国県道がない2県(埼玉・富山)を除く

Ⅲ 『観光や産業の振興を進めるみちづくり』

観光や産業（物流含む）の振興を通して、成熟した豊かな地域を目指す

自然を活かした観光や各地域の強みである産業等の振興を更に進めるため、県内の地域間を結ぶ道路や、県境道路などの隣県や大都市圏へとつながる道路交通の円滑性や安全性の向上、更には移動を楽しめるみちづくりを進めます。

施策Ⅲ-① 産業の生産性や観光の周遊性を高める道路整備

- ①リニア中央新幹線や高速道路等を軸とした交通の円滑化
 - ・高速交通網整備，ICへのアクセス道路整備等
- ②自動車以外の観光客移動の利便性向上
 - ・広域交通拠点（新幹線駅・空港など）の結節機能強化，観光地へのバス路線環境改善等
- ③誰もが分かり易い道路案内表示の整備
 - ・標識への観光地名表示，多言語表示等

●工業団地アクセス道路のイメージ



●標識の多言語表示例



施策Ⅲ-② 観光・産業交通をふまえた安全・安心な道路整備

- ①観光・産業道路の安全性や快適性の向上
 - ・観光や物流のニーズをふまえた対策，道の駅への公衆無線LAN設置支援，トイレの快適化等
- ②観光地を安心して歩ける道路環境整備
 - ・観光地の散策路整備や駐車場間の歩道のグレードアップ等

●快適なトイレの例



●観光地歩道のグレードアップの例



施策Ⅲ-③ 移動を楽しめるみちづくり

- ①移動中の景観を楽しむための道路環境の整備
 - ・日本風景街道、路線愛称活用，眺望スポット整備、情報発信等
- ②自転車需要の増加に応じた道路環境の整備
 - ・自転車道整備，道の駅へのサイクルステーション整備等
- ③インフラツーリズム需要増加を活かした取組等
 - ・橋カードや信州ナビ（長野県観光・交通案内マップ）による情報発信，見学会の充実等

●自転車道の整備例



●路線愛称の活用例



	整備効果	現状	概ね10年後 注：(カッコ)内は将来*1の値	
			リニア開業	+関連道路整備
(1)	東京90分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	約60%	約85%
	名古屋60分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	約46%	約59%
	高速道路・地域高規格道路 15分アクセス圏人口カバー率	約70%	(約80%)	
	国際港湾180分カバー圏の 主な工業団地数	51か所	(63か所)	
	国際線定期便空港90分カバー圏の 主要観光地数	0か所	(108か所)	
(2)	公衆無線LANの 道の駅への設置率	55%	100%を目指した設置支援*2実施	
	道の駅(県管理)のトイレ洋式化率	60%	概ね100%+快適性向上	

*1:「将来」事業中・調査中の路線や箇所等(スマートIC含む)が完成した時と仮定。

*2:設置者が市町村や民間事業者が中心のため、設置支援とする

参考 道路事業の進め方事例

地域戦略推進型公共事業(地域の課題を「連携と協働」で解決する「新たな公共事業の展開」)

地域のビジョンの実現、課題の解決に向けて、地域と連携・協働しながら、戦略的に社会資本整備を進める「地域戦略推進型公共事業」の取組を、平成28年度から本格的に実施しています。

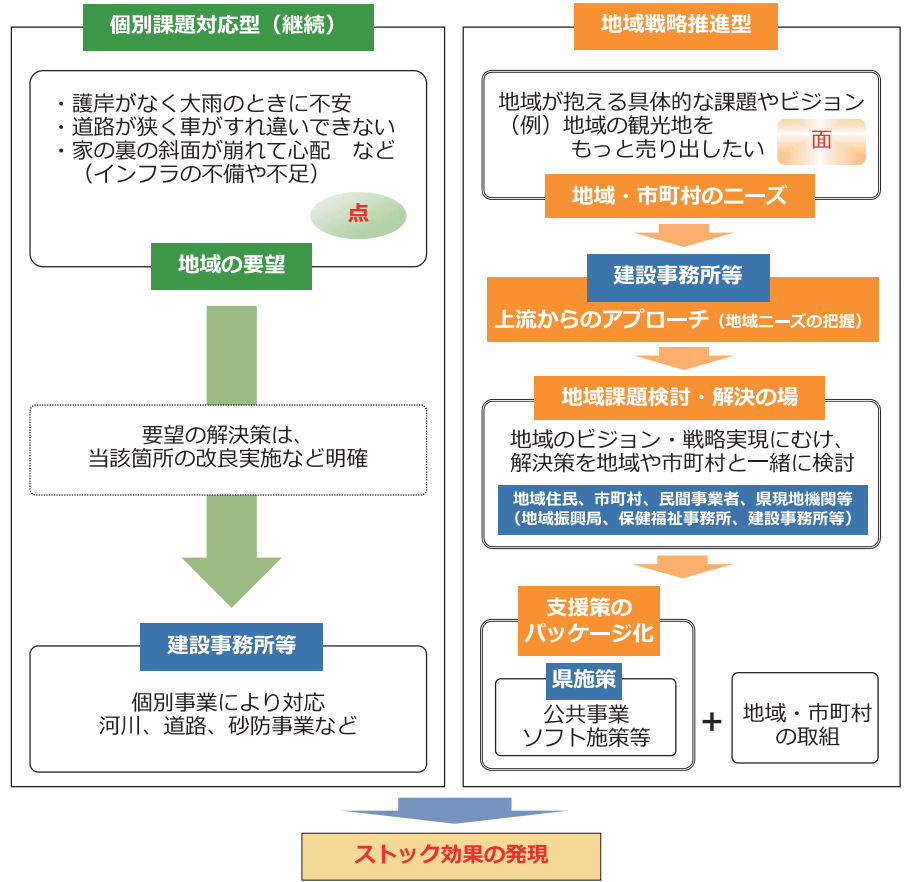
この取組では、建設部所管の公共事業のみでなく、部局横断的に各部局の支援策も併せてパッケージ化し、重点的かつ効果的に実施し、ストック効果の発揮をめざします。

【事業例】

- ・観光地の歩道グレードアッププラン
- ・諏訪湖を活かしたまちづくり など

【ストック効果とは】

インフラが機能することで、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。(安全・安心効果、生活の質の向上効果、生産性向上効果など)



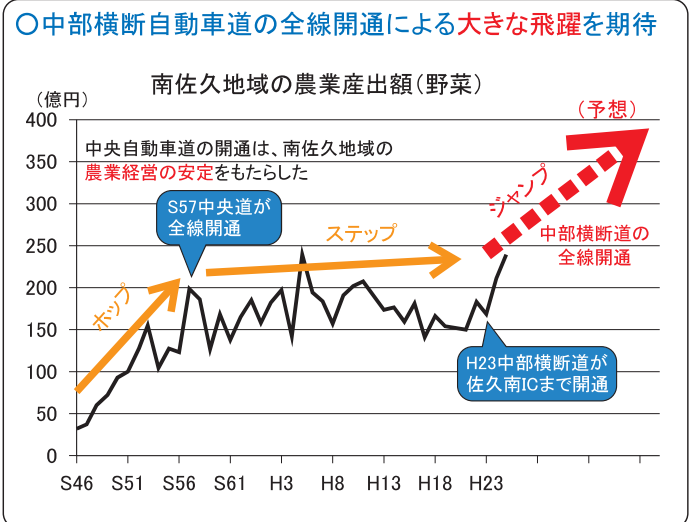
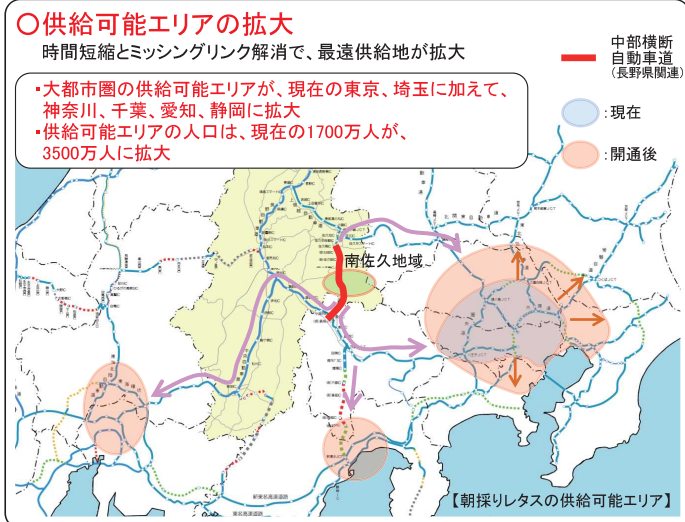
参考 道路整備のストック効果事例

中部横断自動車道(農産物供給エリアの拡大等)

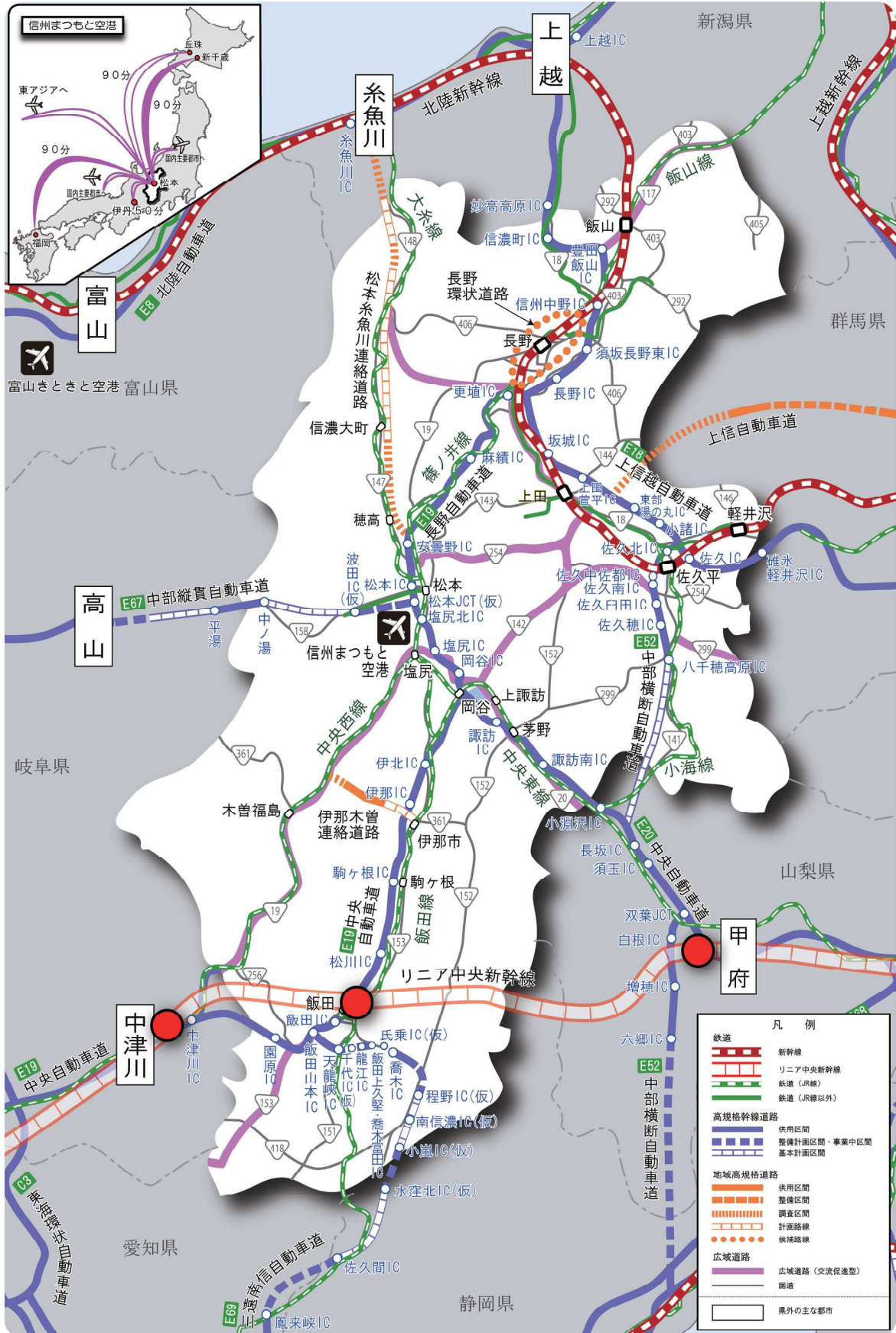
○レタスづくりには、冷涼な気候が必要。長野県のレタス出荷量は、全国1位！

特に8月と9月は、南佐久地域と上田地域で全国の約9割のシェア！

○中部横断自動車道の整備による時間短縮とミッシングリンク解消で、みずみずしい朝採りレタスを、より多くの食卓に届けられるようになります！



長野県の交通ネットワーク



※路線のルートや具体的な位置などを規定するものではありません
 ※地域高規格道路は長野県に関連するもののみを表示

出典：「長野県新総合交通ビジョン」（2013年3月）をもとに2018年4月時点で更新

信州みちビジョン [概要版]

平成30年(2018年)3月

長野県 建設部

〒380-8570 長野市大字南長野字幡下692-2

☎ 026-235-7304 (道路建設課)

✉ michiken@pref.nagano.lg.jp

🌐 <http://www.pref.nagano.lg.jp/>

[表紙写真(上段左から下段右下へ)]

- 下諏訪町 諏訪湖と湖周サイクリングロード整備イメージ
- 大田市 北アルプスと市街地を貫く国道147号 (写真中央)
- 上田市 県道などで行われる信州上田祇園祭
- 飯田市 天竜舟下りから見る南原橋 (県道)
- 長野市 林間を通る戸隠バードライン (県道など)
- 南木曽町 ライトアップされた桃川橋 (重要文化財)